

骨髓線維症に対する同種造血幹細胞移植の治療成績－関東造血幹細胞共同研究グループ (KSGCT) における後方視的解析－

Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for primary and secondary myelofibrosis

武内正博 1、中世古知昭 1、大和田千桂子 1、秋山秀樹 2、山本正英 2、森毅彦 3、相佐好伸 3、神田善伸 4、高橋聡 5、横田朗 6、川口岳晴 6、斉藤貴之 7、初見菜穂子 8、田口淳 9、高崎啓孝 10、金森平和 10、丸田壱郎 10、坂巻壽 2、岡本真一郎 3

関東造血細胞移植共同研究グループ(KSGCT)

- 1 千葉大学 血液内科
- 2 東京都立駒込病院 血液内科
- 3 慶應大学 血液内科
- 4 自治医科大学さいたま医療センター 血液科
- 5 東京大学医科学研究所 先端医療研究センター
- 6 千葉市立青葉病院 内科
- 7 群馬大学 血液内科
- 8 済生会前橋病院 血液内科
- 9 静岡赤十字病院 血液内科
- 10 神奈川県立がんセンター 血液内科

【緒言】 骨髓線維症(MF)においては、近年用量減量前処置による同種移植(RIST)が有用であるという報告が見られるが、脾腫や骨髓線維化の影響、最適な移植方法に関する本邦におけるデータは乏しい。そこで我々は KSGCT 参加施設における MF に対する同種移植(allo-SCT)の後方視的解析を行った。

【対象】 1997年から2008年までに allo-SCT を行った MF26例(男性15例、女性11例)。移植時年齢中央値49歳(21-63歳)。原疾患は原発性骨髓線維症(PMF)13例、二次性MF13例(PV3,ET5,MDS5)。末梢血芽球が20%以上の白血化症例は6例。移植前摘脾1例、脾照射1例。

【結果】 HLA一致同胞間移植11例(BMT8、PBSCT3)、非血縁者間移植15例(BMT12、PBSCT1(台湾バンク)、CBT2)。フル移植16例、RIST10例であった。全例ドナー造血の生着が得られ、好中球500/ μ l以上の回復中央値は19日であったが、血小板2万/ μ l以上の回復中央値は55日であった。観察期間中央値428日(18-4046)で、5年全生存率(5yOS)は57.4%であり、PMFの5yOSは53.9%、二次性MFは63.5%($p=0.81$)であった。白血化症例を除いた20例の5yOSは67.2%であり、フル移植(11例)81.8%、RIST(9例)55.6%($p=0.41$)と有意差はないが、フル移植の方が良い傾向にあった。死亡11例のうち原病死は6例であり、RISTでは移植後100日以内の早期死亡は見られなかったが、原病死2例、RRTによる死亡3例であった。移植後1年以上生存した13例のうち、骨髓線維化は6例で消失、4例で改善した。

【考察】 MFに対する移植では、移植前脾腫や骨髓線維化の程度、原発性・続発性にかかわらず生着は良好であったが、血小板回復が遅延する傾向にあった。白血化を有しない症例での生存率は良好であったが、RISTでは晩期合併症による死亡が比較的多く注意を要する。